



♪お手紙ついた♪いらなインコは食べずに読んだ♪

前略 たしかに、以前は「個人的には疑問がある」と言っておりましたが、政権をとって学ぶにつけ、裁判員制度はとても大切なものであることがわかってまいりました。

またまた思いつきだとか、軽いとか、口先だけだとかメチャクチャ言われたくはないのであります。

深い決意をもって、この制度を定着させていただきたいのであります。

今や私のウチは、母からのお小遣いの問題やどなかたの政治資金規正法問題など、あれこれ言われている世帯でございます。「裁判員制度廃止」を言い募り、最高裁や法務省などを無用に刺激したくないとの思いを大事にしたいのであります。支持率がこの間急激に下がっていると母も申しております。

制度推進の旗を振って下さっている「連合」のご機嫌を損ねたくないということも当然あるのであります。

だから今、私は裁判員制度を守りたい。裁判がいくら滞留しようとも、裁判員がPTSDで退職に追い込まれようとも、廃止は少なくとも論外、できる限り裁判員のみなさまの負担を軽減したいと願うのです。

学ばば学ぶほど、この制度を守ることが、国民の意識を変え、戦争ができる国づくりにすすむという宇宙の真理にかなうとの思いに至ったのであります。

以前の発言について、浅はかだったと言われれば、そのとおりのかもしれません。

同じ鳥類としての友愛の情をもって、私のこの思いを、裁判員いらなインコさんに、ぜひご理解をいただきましたのであります。

草々

p. s. 弟は、さっさと群れを離れ、一羽で圏外に去ってしまいました。あなたにはくれぐれもよろしくと伝えてほしいとのことでした。

2010. 5. 21



昨年の暑い夏からの闘い、その結果、日本の司法の歴史は大きく変わりました。私どもの判断は決して間違っていなかった。私は今でもそう確信したいのであります。その思いを大切にしたいのです。

ただ、残念なことに、私どもの思いが必ずしも国民のみなさんの心に映っていません。

国民のみなさんが徐々に徐々に耳を傾けなくなった。そのことは残念でならないと思っています。

その原因、2つだけ申し上げます。1つは、「現代の赤紙」徴兵制のようだということでもあります。

いま1つは憲法に規定のない新しい公共、いえ新しい義務を持ち込んだことです。それが、こんなにも早く見透かされてしまうなど、私自身まったく想像だにしませんでした。

言い訳が長くなりました。私の御殿のテラス、いや法テラスというのかな、1羽のサイバンコバトが飛んでまいりました。どうもそのコバト、実は弟のところにいるサイバンコバトとまったく同じでした。あ、失礼、インコであります。鳥の名前間違えちゃいけない。1羽のサイバンインコが飛んでまいりました。

もうそろそろ制度を廃止しろよ。そのように言っているようにも感じたところでございます。

大変ふっつかな私でございましたけれど、裁判員の皆さまの思いを大切に、せめてものお詫びのしるしに記者会見は厳しくお断りし、弟の後を追って私も圏外に飛び立ちます。いらなインコさん、あなたはやっぱりこの闘いのおおとりでした。ではさようなら。

2010. 6. 2



